

第21回人材育成学会年次大会
2023/12/10 研究発表
長野県立大学 三輪キャンパス



山形大学
Yamagata University

発達障害学生の 卒業時インタビュー調査 —大学入学前とのギャップから 見えてきたキャリア教育の課題—

山形大学 学術研究院
○山本 美奈子
松坂 暢浩
藤原 宏司

スライドの配布について

山形大学では、SDGsの観点から、
発表スライドをオンラインで公開しています



スライドの場所：oireで検索



The screenshot shows a Google search for "OIRE". The search bar contains "OIRE" with a red arrow pointing to it. Below the search bar, there are navigation options: "すべて", "画像", "地図", "動画", "ニュース", "もっと見る", and "ツール". The search results for "OIRE" are displayed, with a red arrow pointing to the first result. The first result is from Yamagata University, titled "OIRE | 山形大学 教育推進機構 教育企画・教学マネジメント部門" with a green checkmark. Below the title is a description: "山形大学 Office of Institutional Research & Effectivenessのウェブサイトです。IRやIEを中心とした活動を広く一般に伝えて行きます。". There are four more search results listed below: "IR担当者向け実践プログラム", "活動内容", "OIRE Reports", and "OIREについて". At the bottom of the search results, there is a link: "yamagata-u.ac.jp からの検索結果 »".

Google

OIRE

× | 🔊 📷 🔍

🔍 すべて 画像 地図 動画 ニュース もっと見る ツール

山形大学
https://ir.yamagata-u.ac.jp

OIRE | 山形大学 教育推進機構 教育企画・教学マネジメント部門 ✓

山形大学 Office of Institutional Research & Effectivenessのウェブサイトです。IRやIEを中心とした活動を広く一般に伝えて行きます。

IR担当者向け実践プログラム
大学等の高等教育機関に勤務している方を対象に開講する、IR ...

活動内容
山形大学 Office of Institutional Research & Effectivenessのウェ ...

OIRE Reports
山形大学 Office of Institutional Research & Effectivenessのウェ ...

OIREについて
山形大学 Office of Institutional Research & Effectivenessのウェ ...

yamagata-u.ac.jp からの検索結果 »

「発表資料」をクリック



OIREについて

IR担当者向け実践プログラム

活動内容

発表資料



山形大学 教育推進機構
教育企画・教学マネジメント部門
Office of Institutional Research & Effectiveness (OIRE)



「学会」をクリック



[OIREについて](#) [IR担当者向け実践プログラム](#) [活動内容](#) [発表資料](#)



発表資料

[招待](#) ▾

[学会](#) ▾

研究概要

- **高等教育機関に入学する発達障害学生は急増**
- 留年・退学する学生は多く、卒業率は7割弱
- 就職率は一般学生（96%）に対し、発達障害学生（36%）は、かなり低い。

本研究では、卒業（見込み）の発達障害学生に対して、大学入学前の期待度、在学中についての振り返りに関するインタビュー調査を実施。本発表では、調査結果を報告するとともに、発達障害学生向けに**どのような初年次教育プログラム（キャリア教育含む）**が必要か検討する。

本研究では「障がい」は、法規の表記に従って「障害」で統一、「障がい学生支援センター」の名称は表記の通りに記述した。

本研究の定義：発達障害

- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり

知的な遅れ
を伴うことも
ある

自閉症

広汎性発達障害 (PDD)

アスペルガー症候群

ASD

注意欠陥多動性障害 AD/HD

- 不注意(集中できない)
- 多動・多弁(じっとしてられない)
- 衝動的に行動する(考えるよりも先に動く)

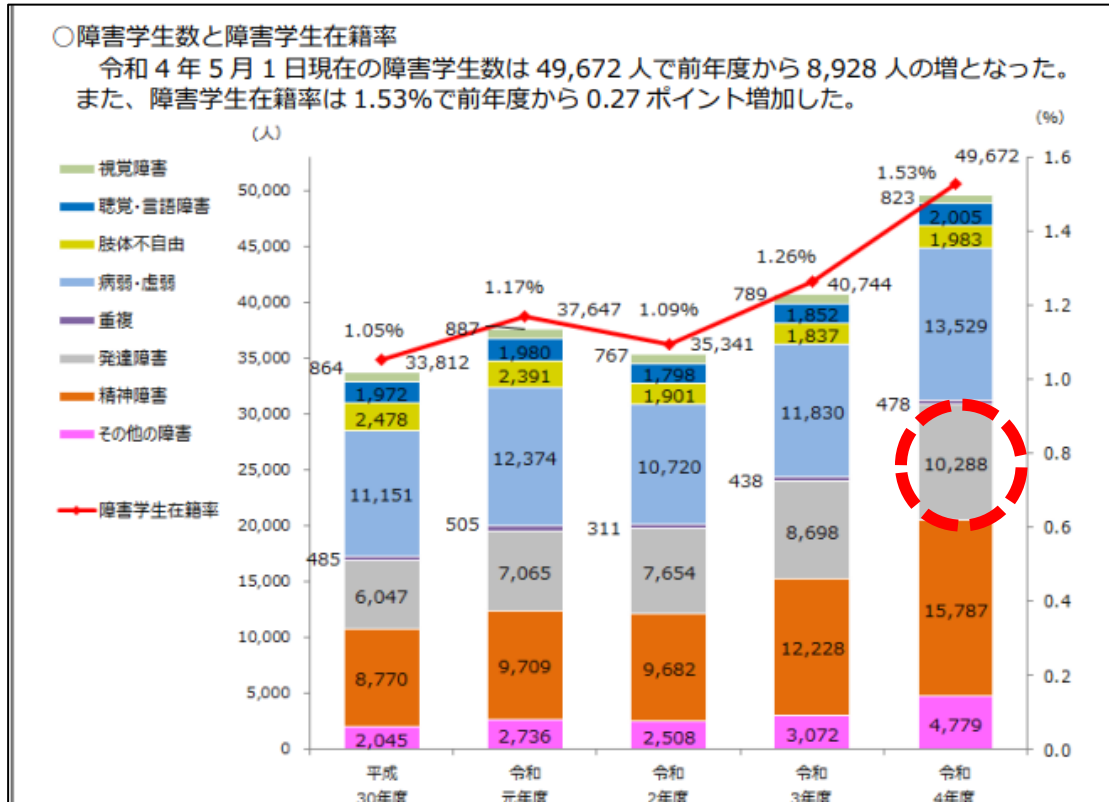
学習障害 LD

- 「読む」、「書く」、「計算する」等の能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手

- 基本的に、言葉の発達の遅れはない
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、興味・関心のかたより
- 不器用(言語発達に比べて)

※このほか、トゥレット症候群や吃音(症)なども発達障害に含まれる。

研究背景



「障害学生数と障害在籍率の推移」日本学生支援機構（2022）

- 留年・退学する学生は多く、卒業率は7割弱
- 就職率は一般学生（96%）に対し、発達障害学生（36%）は、低い

研究背景

- 発達障害学生は、高校の学校生活と大学生生活にギャップがあり、初期適応が困難 (高橋,2012)
- 対人関係
- スケジュール管理
- 健康管理 など課題を抱えていることが多い

高校	大学
担任、クラスが決まっている	担任、クラスがない
担任が具体的な指示をだすため、構造化された環境のもとで判断や行動がしやすい	時間割作成や空き時間の過ごし方など自由度が大きい 具体的にどのように行動すればよいのか、明確な指示が得にくい

研究背景

□ 発達障害学生へのサポートに関する先行研究

- 希望者に対する修学支援
- ソーシャルスキル訓練の取組み事例などの報告

□ 入学直後から大学が能動的にアプローチを実践している研究報告は多くない。

- 大学の移行支援は、発達障害学生の入学早期のドロップアウトを予防。その後の支援の土台をつくるうえでも重要（桶谷ほか,2011）。
- 10年以上経過しているが、大学入学直後からの支援や教育の研究は、非常に少ない。

本研究の問題と目的

発達障害学生のキャリア教育の課題は何か？ を検討するため

本研究では、卒業（見込み）の発達障害学生を対象に大学生活を振り返って貰い

- 1) 大学入学前の期待度
 - 2) 大学生活の重要度について
- インタビュー調査を行った。

調査結果を基に、発達障害学生向けにどのような
初年次教育プログラム（キャリア教育含む）が必要か検討することを目的にした。

キャリア教育とは「一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」

（文部科学省,2011）

研究方法

項目	方法
対象者と方法	・就職支援をした発達障害のある卒業生（見込み）、半構造化面接法にて実施
質問項目	1) 障がい学生支援センターの活用 2) 授業の履修方法、計画、サポート 3) 体調管理 4) 相談できる人や体制 5) 自己理解（特性理解）
実施時期と時間	・2023年3月～4月 ・約1時間程度で1回実施
実施場所	・大学内のキャリアサポートセンター ・オンライン（希望者）
実施方法	・メモをとりながら話を聞く、ICレコーダー録音
倫理的配慮	・個人が特定されないようにデータ化 ・書面および口頭で説明、承諾書を得る

研究方法：インタビュー調査の分析

□ インタビューで得られたデータを逐語録におこした。

- 逐語録のなかで、話す文脈が複数ある場合は、内容ごとに区分した。
- 「入学前の期待度」と「大学生活の重要度」に関しては、5段階の高低別に分類した。
- 「大学生活の重要度」に関しては、類似した内容ごとにカテゴリー化した。
- 研究者間にて協議したうえで、分類した。

結果：インタビュー対象者の基本属性

n=5

no	性別	卒業 (見込み)	留年 など	文理 別	診断名	診断時期	進路状況
A	男	学部卒	1年 留年	理系	ASD、 ADHD	小学 低学年	障害・オープンで働く 製造業に就職
B	女	学部卒	—	文系	ASD、 ADHD	大学1年	障害・オープンで働く 建築業に就職
C	男	大学院卒	2年 留年	文系	ASD	他大学の 大学院時	進路模索
D	男	学部卒業 (見込み)	2年 留年	理系	ASD	小学 低学年	就職活動をスタート (一般)
E	女	大学院修了 (見込み)	1年 休学	文系	ASD、 ADHD	高校2年	就職活動をスタート (障害・オープン)

結果：大学入学前の期待度（全項目）

項目	期待あり	どちらとも いえない	期待なし
障がい学生支援 センターの活用	2	0	3
授業の履修方法、 計画、サポート	0	0	5
体調管理	2	1	2
相談できる人	2	1	2
自己理解 (特性理解)	0	1	4
計	6	3	16

結果：大学入学前の期待度（項目別の声）

「障がい学生支援センター」

センターの存在を知らなかった

必要性も感じていなかった



「授業の履修方法、計画、サポート」



大学の授業を想像していなかった

気づいたら、単位が取れない授業がたくさんあり留年が決定していた

「体調管理」

一人暮らしで夜遅くまでゲームすることが多く、朝起きれなかった

試験が重なると体調を崩しやすかった



結果：大学入学前の期待度（項目別の声）

「相談できる人や体制」



自分がどんなことに困るか想像できていなかった

高校と大学の違いを知らなかったなので、相談の重要性について考えていなかった

「自己理解（特性理解）」

自分の強みの見つけ方や苦手について、考えたことがなかった

自分のことがよくわかっていなかったし、何が困るのが漠然としていた



結果：大学生生活を振り返っての重要度（全項目）

項目
障がい学生支援センターの活用
授業の履修方法、計画、サポート
体調管理
相談できる人
自己理解 (特性理解)

全員が
重要と回答

結果：大学生生活を振り返っての重要度の分類

項目	分類
障がい学生支援センターの活用	入学時の周知方法の工夫 活用方法 柔軟な対応
授業の履修方法、計画、サポート	わかりやすさ 苦手対策 チェック体制
体調管理	自己管理の工夫 ストレス対処
相談できる人、体制	複数体制 相談しやすさ
自己理解（特性理解）	発達障害に特化した早期教育 自分の強み理解、特性への対処

インタビューの結果、12個に分類、36個の語りが抽出

結果：大学生生活を振り返っての重要度（項目別の声）

「障がい学生支援センター」

入学時に活用方法を周知
パッとみてわかるイラスト入りがよい

困った時に気軽に相談できる体制が必要



「授業の履修方法、計画、サポート」



大学の授業システムがわかりづらい

入学時に丁寧な説明やサポートが必要

「体調管理」

気づかないうちにストレスがたまり、
体調不良になることを最初の段階で学
べるとよい。



結果：大学生生活を振り返っての重要度（項目別の声）

「相談できる人や体制」



サークルやゼミの友達によく相談して助けて貰ったので、友達が重要。

相談できたから、卒業、就職ができた。自分だけでは、とても叶わなかった。

「自己理解（特性理解）」

自分の強みの見つけ方、付き合い方の方法がわかれば、大学生活が違ってくる。

障害に気づかない人もいるし、発達障害に特化した授業があるとよいのでは。



考察

- 対象者5名中、4名が留年、休学あり
- 全員が「障がい学生支援センター」活用し修学支援
- 入学前の期待度は低い、卒業時の重要度は高い

項目	分類
障がい学生支援センターの活用	入学時の周知方法の工夫
	活用方法
	柔軟な対応
	授業の履修方法、計画、サポート
	チェック体制

- 大学入学準備のための教育プログラムが必要
- 入学時の戸惑い（高校との違い）
- 障がい学生センターの周知
- 困り事への対処支援が初期適応を促す（日本学生支援機構,2022）

考察

項目	分類
体調管理	自己管理の工夫 ストレス対処
相談できる人、体制	複数体制 相談しやすさ
自己理解 (特性理解)	発達障害に特化した早期教育 自分の強み理解 特性への対処

- 失敗体験が続くと修学や進路選択（キャリア発達）に影響を及ぼす
- 自己認知の弱さがある為、自分の特性を正確に認識できていない（原田,2019）
- 米国ランドマーク大学では、障害ニーズの理解、他者に伝える力など大学生活で培う教育を実施（片岡ほか,2015）

本研究のインタビュー調査から、早い段階での組織的な支援・初年次教育プログラム（キャリア教育含む）の必要性が示唆された。

本研究の課題

- **本研究のインタビュー対象者が5名と少ないため、一般化することはできない。**
- **今後、対象者数を増やし、同様のインタビュー調査を実施する必要がある。**
- **発達障害学生向けの初年次教育プログラム（キャリア教育含む）の開発に向けて取り組んでいく予定である。**

付記・謝辞

- 本研究の実施にあたり、インタビュー調査に協力いただいた学生の皆様に深く感謝申し上げます。
- 本研究はJSPS科研費23K02544の助成を受けて実施しました。

主な引用文献

- 原田新 (2019) 「発達障害を有する学生の成人期への移行」 『青年心理学研究』, 30(2), pp.187-192.
- 片岡美華 (2015) 「海外動向 海外における発達障害学生への支援: 学びの保障と自己権利擁護」 『障害者問題研究』 障害者問題研究編集委員会編, 43(2), pp.107-115.
- 厚生労働省 (2021) 「令和3年3月大学等卒業者の就職状況」
https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000184815_00016.html (アクセス日2022年9月2日)
- 日本学生支援機構 (JASSO) 令和元年度 (2021年度) 「障害のある学生の修学支援に関する実態調査」
https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_shogai_syugaku/__icsFiles/afieldfile/2022/08/17/2021_houkoku_2.pdf (アクセス日2022年12月17日)
- 日本学生支援機構 (JASSO) (2023) 「発達障害 (1) 発達障害とは」
https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/shogai_infomation/shien_guide/hattatsu_shougai.html
- 桶谷文哲・水野薫・吉永崇史・西村優紀美・斎藤清二 (2011) 「発達障害学生の大学移行支援」 『学園の臨床研究』 10, pp.39-49.
- 山本美奈子・松坂暢浩・小倉泰憲 (2019) 「大学生の自己理解を促すキャリア教育-ARCSモデルを活用した授業運営の効果と検討-」 『キャリアデザイン研究』 15, pp.131-140.